

## ■ OnAir 3000 ユーザーレポート

株式会社アール・エフ・ラジオ日本 様

OnAir 3000



東京支社第1スタジオをOnAir 3000で更新



株式会社アール・エフ・ラジオ日本  
総務局 技術部  
國富 誉

### 第1スタジオについて

2009年8月、ラジオ日本では、東京支社第1スタジオの音声設備及び内装の全面改修工事を行いました。このスタジオは、生放送をメインとしており、ラジオ日本にとって、とても重要なスタジオであり、音声卓の選定、システム設計・構築に関しては、正確かつ慎重に打合せ、検討を重ねました。また、制作業務が快適に行えるように、作業スペースの確保なども念頭に置き、全体的なレイアウトについても力を入れました。限られた予算ではありましたが、弊社の希望が全て反映された、理想的なスタジオが完成しました。



### OnAir 3000の選定理由

メインの生放送スタジオということで、音声卓の選定の段階ではかなり悩みました。毎日、生放送で使用するので、音声卓に求める条件としては、安定性と信頼性でした。OnAir 3000は国内外の導入実績が多数あるということで、この導入実績こそが安定性、信頼性を証明していると考え、この点に関しては、条件を満たしていると判断しました。その他、導入に必要な条件としては、操作性、省スペース化、保守体制等でしたが、スチューダー担当者との約1年という長期間による打ち合わせ、デモ、導入局様への見学等により、OnAir 3000（27フェーダー）が上記条件をほぼ満たしており、ラジオ日本の生放送の運用方法にもっとも適している音声卓であると判断し、導入を決定しました。

### 運用開始から約1ヶ月間の感想

当初は、生放送スタジオにデジタル卓を導入することに関して、設定や操作が複雑ではないかなど、不安の声が出ていました。しかし、運用開始から今日まで、約1ヶ月程度ですが、不安の声は嘘のように、順調に運用しています。導入されて以来、毎日スタジオを使用していますが、オペレーションに関してトラブルもありません。また幸いなことに、卓の使い方についての質問や呼び

出しもほとんどありません。しいて言えば、初期設定についてはかなり苦労しましたが、番組毎に入力素材が異なるため、フェーダーの並びを変えて運用しております。これまでは、パッチをしてフェーダーに立ち上げていたりしていましたが、スナップショットで瞬時に変えられるので、準備作業が簡素化されました。また、メインスクリーンやフェーダースクリーンはかなり便利であると実感しております。タッチ一発で、EQ、COMPなどスクリーンに表示され細かい調整が瞬時にできますし、AUX、N-Xなどの外部に送っている状況も一目瞭然にわかります。

今回の更新工事では、音声設備及び内装だけでなく、アナデスク、音声卓デスク、ディレクターデスク、機器ラック等も一新しました。すべて木製の特注品で、高級感あふれる、近代的なスタジオに生まれかわったと思います。

2009年8月18日（月）正午から新スタジオの運用を開始しました。運用開始から約1ヶ月程度ですが、これまで順調に運用しております。ラジオ日本を代表する生放送スタジオが完成したと思っております。最後に、スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト、システム工事を担当された株式会社アイコニック、また今回のスタジオ更新工事に尽力をいただいたスタッフ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。